

教えるから 共に学ぶへ ⑩-1

R 8. 1. 14
R7. 12. 24 (水) の2年生国語の
授業レポート
今治市立菊間中学校
中尾 真衣

菊間中学校では、グランドデザインに示したように「学び合い」「聴き合い」「探究的な学習」をキーワードに授業改善を進めています。その第16弾として、中尾が2年1組で研究授業をしましたので、その様子をお知らせします。

B課題；学力の基盤(base)となる課題

A課題；探究活動(advanced)を導く課題

◇ 授業の流れ

目標 「醒醉笑」(江戸時代の古文)を現代版にアレンジしよう。

1 古文(「醒醉笑」の一説)を現代語訳する。(B課題)

「醒醉笑」は、江戸時代の笑い話を集めたものです。高校入試にも、よく出題されています。要約すると以下ようになります。

おっちょこちょいなご仁が、初めて食べたえびが赤いを見て、鍋で煮ると何でも赤くなるのだと合点しました。後日、侍の行列を見かけた際、朱塗りの赤い長槍を持っているのを見て、驚きます。4メートルもの長さの長槍を煮ることができる大きな鍋がよくあったものだ、と。

2 古文を現代風アレンジする。(A課題)

(1) 「アレンジのコツ」を参考に、現代風の笑える落とし小話を班で考案する。

○アイテムを現代のものに変える。 ○場所を身近な場所に変える。

○オチの形は保つ。 ○面白くないといけない。(アレンジのコツ)

(2) 考えた小話と、工夫したポイントを全体に発表する。

ある班の作品を紹介します。前半は同じなので割愛します。(私の方で少々手直ししています。)

…その人は、東京旅行に行きました。そこで東京タワーを見て驚きました。通りかかった東京出身の人が「何にそんなに感心しているのか。」と尋ねます。すると、その人は、「だってこの東京タワーは鍋に入れてゆでたけん赤くなったんやろ？」と。すると、東京出身の人に「あなたはどこの出身のかたですか。あなたの話が理解できません。こんな大きな鍋は世界中探したってないですよ。」と言われてしまいました。

◇ 授業者の感想

教科書に載る古文は「平家物語」「徒然草」などの真面目な章に限られています。古文にも楽しい話や、下世話なものもあると知ってもらえればと思い、この題材を選びました。ありそうでない「おっちょこちょい」が、よく落とし噺に登場します。現代でも通じる笑いですし、笑いどころが古文の時代の人たちも変わらないと気付いてもらえれば、古文に親しみを持てます。読書の幅を広げていってもらえたらうれしいです。

できあがったアレンジ作品は、班の個性を反映して、それぞれ微笑ましい作品、シュールな作品、爆笑をかささらった作品に仕上がっていました。難解な古文に果敢に取り組む姿が見られ、やって良かったと手ごたえを感じました。これからも、教科書掲載の文章だけではなく、読んだことについて「話したい」「聞いてみたい」「もっと考えたい」と感じてもらえるような文章を紹介していきたいと考えています。

◇ 保護者の皆様へ

みなさんならどのようなアレンジ作品を考えますか。できあがった作品も面白かったですが、アレンジを考える話合いの中での会話も大変楽しめました。ぜひご家庭でも、「えび」の話に触れてみてください。ここに載せられなかった作品の話が聞けるかもしれません。そこで話したこと、ご自身でお考えになったアレンジについて、または、今後の授業の題材におすすめの本や文章の提案でも何でも構わないので、ぜひ、以下の感想用紙にご意見をいただければと思います。今後とも、菊間中学校の授業改善へのご協力をよろしくお願いいたします。



切り取り線

「教えるから共に学ぶへ⑩—1」への感想文
